映像デザイン実習旧カリ

学校番号	3010

令和5年度　工業（映像デザイン）　科

教科	工業	科目	映像デザイン実習	単位数	3 単位	年次	3 年次
使用教科書	自主編集教材						
副教材等	なし						

1担当者からのメッセージ（学習方法等）

実習(映像デザイン分野)の中で写真作品制作とビデオ作品制作とグラフィックデザイン作品制作に関する実用的な知識と技術を講義と実習を通して学びます。目的に合った機材の応用的な使い方、アプリケーションの使い方と技術を身に付け、それぞれの特性を理解し、2年で培った技術、知識を基に工夫を凝らした作品制作の応用力を身に付けます。授業では作品制作にかかわる真摯な態度と向上心、提出物を重視します。

履修条件
なし

2学習の到達目標

映像作品制作の取り組み姿勢、実用的な態度と技術を身に付けるにあたって、さまざまな機材やアプリケーションの応用的な使い方と技術を学ぶ。また、目的に合った機材やアプリケーションの効果的な使い分けを実践する。また、機材の扱いに慣れることで、専門的な知識と技術などの深化・統合化を図り、その経験を今後の制作活動に生かせるようにする。映像デザインに関する課題の解決に主体的かつ協動的に取り組み、実践することができるようにすると同時に、客観的に作品を鑑賞する立場の視点を持ち制作活動に取り組み、その経験を今後の制作活動に生かせるようにする。

3学習評価 評価 規準 と評価方法

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	自らが興味を持って取り組めているか グループワークにおいては自らの役割を理解し全体の為に協力して取り組めているか	課題の目的を理解し、意図を明確にした作品制作計画ができているか 目的に応じた表現ができているか	映像デザインに必要なカメラや編集機材を目的に応じて使用できるか Photoshop・Illustrator・Premiere・InDesignなどのアプリケーションを有効的に使用し作品で表現できているか	映像デザインに必要なカメラや編集機材を安全に正しく使用できるか Photoshop・Illustrator・Premiere・InDesignなどのアプリケーションを正しい手順で使用できているか
評価方法	日々の学習の記録をまとめたノートや、実習中の学習の様子により評価	作品計画書や絵コンテ、シナリオ・プレゼンテーションなどにより評価	提出された作品の内容によって評価	日々の学習の記録をまとめたノートや、実習中の学習の様子、提出された作品の内容によって評価

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	雑誌編集	自分で雑誌に取り上げたいテーマを設定し、必要な素材をIllustrator、Photoshopで加工・修正しInDesignで編集する。	〇	〇	〇	〇	a:身近にある映像メディアに関心を持ち、意欲的に情報収集に努め、自己の作品に反映させようとしている。 b:映像作品制作に関する工程を通して、適切な思考・判断を行い、計画的に作品制作に取り組むことができる。 c:機材・アプリケーションの使い方、効果的な映像表現技術を身に付け、安全に合理的・効果的に作業を進めることができる。 d:計画的に課題に取り組み、機材・アプリケーションの使い方を正しく理解し、ものづくりに関する探求・創造的な能力を身に付けようとしている。	技術習熟度 出席状況 実習態度 提出作品 レポート
2	写真	商品の広告ポスターを制作する。企画から撮影、デザインまで一人で行う。撮影ではプロのモデルを起用し、スタジオで行う。撮影後はPhotoshop,Camera Rawで画像処理、Illustratorでポスターデザインをする。	〇	〇	〇	〇	a:主体的に課題に取り組むことができる。自主的・継続的な学習を通じ、写真表現に関する探求・創造的な能力を身に付けようとしている。 b:広告における写真の役割、広告の製作目的を理解し、効果的な宣伝が行えるポスターデザインができる。 c:目的に応じて機材・アプリケーションを使い作品で表現できている。 d:機材・アプリケーションの使い方を理解している。必要な基礎的な知識・技術を身に付け安全に作業を進めることができる。	技術習熟度 出席状況 実習態度 提出作品 レポート

3	ビデオ	スタジオ番組制作を行う。番組を企画し、グループ間で互いに出演する。高機能のビデオカメラを複数台使用し、撮影、録音を行う。 撮影した映像をFinal Cut Proにより効果的な画面の切り替え、テロップ、効果音などの処理を施し視聴者を意識した制作を行う。	〇	〇	〇	〇	a:身近にある映像メディアに関心を持ち、意欲的に情報収集に努め、自己の作品に反映させようとしている。 b:映像作品制作に関する工程を通して、適切な思考・判断を行い、計画的に作品制作に取り組むことができる。 c:機材・アプリケーションの使い方、効果的な映像表現技術を身に付け、安全に合理的・効果的に作業を進めることができる。 d:計画的に課題に取り組み、機材・アプリケーションの使い方を正しく理解し、ものづくりに関する探求・創造的な能力を身に付けようとしている。	技術習熟度 出席状況 実習態度 提出作品 レポート

※　表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c:技能　　d: 知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。